(削る)

〇農林水産省令第四十四号

家畜伝染病予防法(昭和二十六年法律第百六十六号)第十二条第一項、 |第一号及び第五十条の規定に基づき、並びに同法を実施するため、家畜伝染病予防法施行規則の一部を改正する省令を次のように定める。 令和七年九月二十九日 第十二条の三第一項、第十二条の四第一項、第三十六条第一項第一号、第三十七条第一項、 第三十八条の二第一項、第四十六条の 農林水産大臣 小泉進次郎

掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正前欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、これを加え、 これを削る 次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分(以下「傍線部分」という。)でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分があるものは、これを当該傍線部分のように改め、改正後欄に家畜伝染病予防法施行規則(昭和二十六年農林省令第三十五号)の一部を次のように改正する。家畜伝染病予防法施行規則の一部を改正する省令 改正前欄に掲げる規定の傍線部分でこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線部分がないものは、

第十八条 法第十二条第一項の農林水産大臣の指定する催物は、次のとおりとする。 (指定家畜集合施設) めにする催物

第二十一条の五 法第十二条の四第一項の規定による報告は、 及び馬にあつては一頭、鹿、めん羊、山羊、豚及びいのししにあつては六頭未満、鶏、あひる、 されている家畜をいう。以下同じ。)の所有者については、当該書類を添付することを要しない。 十羽未満を飼養し、かつ、生きた家畜及び乳、卵等の生産物の出荷を行つていない農場で飼養 うずら、きじ、ほろほろ鳥及び七面鳥にあつては百羽未満、エミュー及びだちようにあつては に次に掲げる書類を添えてしなければならない。ただし、これらのうち非商用家畜(牛、水牛 豚及びいのししの所有者にあつては毎年四月十五日までに、鶏、あひる、うずら、きじ、エ に関する施設を含む一団の場所をいう。以下同じ。)ごとに、牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、 だちよう、ほろほろ鳥及び七面鳥の所有者にあつては毎年六月十五日までに、報告書 農場(畜舎等その他の家畜の飼養

(削る)

限る。)を除く。)を規定する飼養衛生管理マニュアルの写し 次に掲げる事項(馬の所有者にあつては、 リ(防疫のための更衣に関する具体的な方法に

イ~ハ (略)

場の平面図 衛生管理区域及びその出入口並びに消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農

ホ~ト (略)

(略)

(削る)

具体的な方法、 手指、衣服、 消毒薬の種類 靴 物品、 車両、施設等の洗浄及び消毒並びに防疫のための更衣に関する 作用時間及び乾燥時間等

正 後

改

第十八条 法第十二条第一項の農林水産大臣の指定する催物は、次のとおりとする。

(指定家畜集合施設

改

正

前

三 都道府県の区域(北海道にあつては、支庁の区域)を超える区域から牛、

鹿

鳥を集合させる共進会、博覧会その他これらの家畜又はその能力等を展示するためにする催

めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だちよう、ほろほろ鳥又は七面

鳥又は七面鳥を集合させる共進会、博覧会その他これらの家畜又はその能力等を展示するた めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、エミュー、だちよう、ほろほろ一 都道府県の区域(北海道にあつては、支庁の区域)を超える区域から牛、水牛、鹿、馬、

(定期の報告

第二十一条の五 法第十二条の四第一項の規定による報告は、 書類を添えてしなければならない。 豚及びいのししの所有者にあつては毎年四月十五日までに、 よう、ほろほろ鳥及び七面鳥の所有者にあつては毎年六月十五日までに、報告書に次に掲げる に関する施設を含む一団の場所をいう。以下同じ。)ごとに、 鶏、あひる、うずら、きじ、だち牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、 農場(畜舎等その他の家畜の飼養

な消毒をする設備の設置箇所を明示した農場の平面図 衛生管理区域及びその出入口並びに特定疾病又は監視伝染病の発生を予防するために必要

二~

アルの写し 次に掲げる事項(馬の所有者にあつては、ト及びリを除く。)を規定する飼養衛生管理マニュ

イ~ハ (略)

(新設)

<u>-</u> ~ (略)

猫等の愛玩動物の衛生管区域内での飼育禁止

略

IJ 農場における防疫のための更衣

ヌ 種類、 手指、 作用時間及び乾燥時間等 衣服、 靴 物品、車両、 施設等の洗浄及び消毒に関する具体的な方法 消毒薬の

担当の診療施設の名称を記載した書面 畜の所有者(以下「大規模所有者」という。)にあつては、担当の獣医師の氏名及び所属又は 次のイからホまでに掲げる家畜の区分に応じ、当該イからホまでに定める頭羽数以上の家

(報告事項)

略) あひる、きじ、 エミュー、 だちよう、ほろほろ鳥及び七面鳥 一万羽

第二十一条の六 法第十二条の四第一項の農林水産省令で定める事項は、次に掲げるもの(その 号及び第五号に掲げるものに限る。)とする。 羽未満、エミュー及びだちようにあつては十羽未満の家畜の所有者については、第一号、 のししにあつては六頭未満、鶏、あひる、うずら、きじ、ほろほろ鳥及び七面鳥にあつては百 飼養している家畜の頭羽数が、牛、水牛及び馬にあつては一頭、鹿、めん羊、山羊、豚及びい 第二

第四十三条 法第三十六条第一項第一号の農林水産省令で定める地域は、 物ごとに、それぞれ同表の中欄に定める地域とする。 (輸入の禁止) 次の表の上欄に掲げる

(略)	(略) (略) (略) (略) (略) (略) (略) (略) (略) (略)	物がみずれる
(略)	ユリリ、 カラ ボド 、 ウェー 前 自 、 トル 、 ウラー ラトビ 、 ボー 、 カー が 、 アイツ 、 カー ジェー デー ス ス 保 の の ア 、 カー ジ 、 ファ 、	地域域
(略)	- [原 ・	備考(対象とする伝染性疾病)
	三笠にのあ島だ鶏	4
略	三 第 に の あ 鳥 だ 鶏 号 一 係 の ひ み び ら と ら と ら と ら と ら と ら と ら と ら と ら と ら	4

令和7年9月29日 月曜日

九 畜の所有者(以下「大規模所有者」という。)にあつては、担当の獣医師の氏名及び所属又は、次のイからホまでに掲げる家畜の区分に応じ、当該イからホまでに定める頭羽数以上の家 担当の診療施設の名称を記載した書面

ホ あひる、きじ、だちよう、ほろほろ鳥及び七面鳥 一万羽

(略)

(報告事項)

第二十一条の六 法第十二条の四第一項の農林水産省令で定める事項は、次に掲げるもの(その 羽未満、だちようにあつては十羽未満の家畜の所有者については、 のししにあつては六頭未満、鶏、あひる、うずら、きじ、ほろほろ鳥及び七面鳥にあつては百 飼養している家畜の頭羽数が、牛、 に掲げるものに限る。)とする。 水牛及び馬にあつては一頭、鹿、めん羊、山羊、 第一号、 第二号及び第五号 豚及びい

一 5 五 (略)

第四十三条 法第三十六条第一項第一号の農林水産省令で定める地域は、 物ごとに、それぞれ同表の中欄に定める地域とする。 (輸入の禁止) 次の表の上欄に掲げる

(略) (略) 地域 域 (略)				
高病 略 考	(略)	鶏、う ずら、きじ、 鳥及び七面鳥並びに あひる、がちようそ の他のかも目の鳥類 に係る法第三十七条 第一項第一号及び第 三号に掲げる物	(略)	物
0	(略)	地域 ・シンガポール、タイ、フィリピン、クリミア自治共和国、セヴァストーポリ特別市、ドネツク州及びルハンスク州を除く。)、英国(グルハンスク州を除く。)、英国(グルハンスク州を除く。)、英国(グルハンスク州に限る。)、オーストリア、ベルギー、ポーランド、フランド、フランド、プルガリア、ベルギー、ポーランド、ポーランド、ポーク州に限る。)、アメリカ大陸の部分、ハワイ諸島及びグァム島に限る。)、カナダ、アルゼンチン、コスタリカ、コロシア(トゥーラ州及びブリトアニア、アルゼンチン、コスタリカ、コロシア(トゥーラ州及びブリトアニア、オーストラリア、ゴラジル、ペルー、オーストラリア、ニュー・カレドオーストラリア、ニュー・カレドオーストラリア、ニュー・カレドオーストラリア、ニュー・カレドオーストラリア、ニュー・カレドオーストラリア、ニュー・カレドオーストラリア、コスタリカ、コロシア、カーとの部分、カードンが、カードのカーに、カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・カード・	(略)	地域
ザ 疾病	(略)	高病原性鳥インフルエンザ	(略)	備考(対象とする伝染性疾病)

要としている動物にあつては、当該必要としている係留期間とする。

(指定検疫物

第四十五条 法第三十七条第一項の指定検疫物は、次のとおりとする。

次に掲げる動物及びその死体

場の区域外に移動しないでそのまま輸出されるものを除く。) 産大臣が定める要件に該当し、かつ、家畜防疫官の指示に従いその輸入に係る港又は飛行 うその他のかも目の鳥類(以下 鶏、うずら、きじ、エミュー、だちよう、ほろほろ鳥及び七面鳥並びにあひる、 「かも類」という。)(これらの初生ひなであつて、 農林水 がちよ

(動物の輸入に関する届出)

二鶏、うずら、きじ、 (略) エミュー、だちよう、 ほろほろ鳥、 七面鳥及びかも類の卵

第四十七条の二 法第三十八条の二第一項の指定検疫物たる動物で農林水産大臣の指定するもの

次のとおりとする。

鶏、うずら、きじ、エミュー、だちよう、ほろほろ鳥、七面鳥及びかも類

第五十条 法第四十条第一項若しくは第二項又は第四十五条の検査は、係留して行うものとし、 係留期間は、次の表の上欄に掲げる種類の動物(次項の表の上欄に掲げる動物に該当するもの 係留期間について、輸入国政府がその輸入に当たり、同欄に定める期間を超える係留期間を必 を除く。)につき、それぞれ次の表の下欄に定めるとおりとする。ただし、輸出の場合における (検査のための係留期間)

略] 三	m.tz	動
即)	ほろほろ鳥、七面鳥及びかも類鶏、うずら、きじ、エミュー、だちよう、	(略)	物の種類
(略)	出の場合は二日)	(略)	輸入又は輸出の際の係留期間

2 6 (略

(適用除外となる病原体)

第五十六条の三十四 法第四十六条の二十二第一号の農林水産省令で定める病原体は、次に掲げ るものとする。

<u>\$</u> (略)

製品に限る。)に含まれている病原体 条第四号の生物学的製剤に限る。)又は再生医療等製品(同令第二百十四条各号の再生医療等 生物学的製剤(動物用医薬品等取締規則(平成十六年農林水産省令第百七号)第二百十三

略)

(指定検疫物

第四十五条 法第三十七条第一項の指定検疫物は、次のとおりとする。

次に掲げる動物及びその死体

に移動しないでそのまま輸出されるものを除く。) める要件に該当し、かつ、家畜防疫官の指示に従いその輸入に係る港又は飛行場の区域外 かも目の鳥類(以下「かも類」という。)(これらの初生ひなであつて、 鶏、うずら、 きじ、だちよう、ほろほろ鳥及び七面鳥並びにあひる、 がちようその他の 農林水産大臣が定

ハ~ホ

一 鶏、うずら、きじ、だちよう、ほろほろ鳥、七面鳥及びかも類の卵

三~八

(動物の輸入に関する届出

第四十七条の二 法第三十八条の二第一項の指定検疫物たる動物で農林水産大臣の指定するもの 次のとおりとする。

鶏、うずら、きじ、だちよう、ほろほろ鳥、七面鳥及びかも類

三 (略)

(検査のための係留期間

第五十条 法第四十条第一項若しくは第二項又は第四十五条の検査は、係留して行うものとし、 係留期間は、次の表の上欄に掲げる種類の動物(次項の表の上欄に掲げる動物に該当するもの 要としている動物にあつては、当該必要としている係留期間とする。 係留期間について、輸入国政府がその輸入に当たり、 を除く。)につき、それぞれ次の表の下欄に定めるとおりとする。ただし、輸出の場合における 同欄に定める期間を超える係留期間を必

	三		動
(略)	鳥、七面鳥及びかも類 ― 鶏、うずら、きじ、だちよう、ほろほろ	(略)	動物の種類
(略)	出の場合は二日)	(略)	輸入又は輸出の際の係留期間

6

(適用除外となる病原体)

第五十六条の三十四 るものとする。 法第四十六条の二十二第一号の農林水産省令で定める病原体は、 次に掲げ

一~三 (略)

四 の再生医療等製品に限る。) に含まれている病原体 条第一項第四号の生物学的製剤に限る。)又は再生医療等製品(同令第二百十四条第一項各号 生物学的製剤 (動物用医薬品等取締規則 (平成十六年農林水産省令第百七号) 第二百十三

Ŧi.

月曜日

(動物用生物学的製剤の指定)

第五十七条 法第五十条の農林水産大臣の指定する動物用生物学的製剤は、次のとおりとする。 だちよう、ほろほろ鳥、七面鳥、犬、うさぎ及び蜜蜂に使用するものに限る。 製剤(牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、エミュー り読み替えて適用される医薬品医療機器等法第十四条第一項、第十九条の二第一項、第二十 三条の二の五第一項又は第二十三条の二の十七第一項の承認を受けていない動物用生物学的 日本薬局方に収められておらず、かつ、医薬品医療機器等法第八十三条第一項の規定によ

別表第二 (第二十一条関係)

	で が が が が が が が れ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
3 次に掲げる事項を規定するマニュアルの作成及び従事者等への周知徹底) 3 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した肝子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家畜の伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者に周知徹底すること。「1(~3) (略) (略) (略) (略) (略) (略) (略) (略) (事指、衣服、靴、物品、車両、施設等の洗浄及び消毒並びに防疫のための更衣に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等の更衣に関する具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間等	開 後 衛 生 管 理 基 準

(動物用生物学的製剤の指定)

第五十七条 法第五十条の農林水産大臣の指定する動物用生物学的製剤は、次のとおりとする。 製剤(牛、水牛、 り読み替えて適用される医薬品医療機器等法第十四条第一項、第十九条の二第一項、第二十 よう、ほろほろ鳥、七面鳥、犬、うさぎ及び蜜蜂に使用するものに限る。) 三条の二の五第一項又は第二十三条の二の十七第一項の承認を受けていない動物用生物学的 日本薬局方に収められておらず、かつ、医薬品医療機器等法第八十三条第一項の規定によ 鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だち

別表第二(第二十一条関係) (略)

(飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底)

- 3 (1) (3) 疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者 に周知徹底すること。 冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家畜の伝染性 外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、 成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作 当該マニュアルを印字した
- (新設) 略)
- 略)

令和7年9月29日

(9) (8) (7) (4) (5) 農 (6) 農場における防疫のための更衣

猫等の愛玩動物の衛生管理区域内での飼育禁止

(10)な方法、 手指、 衣服、 消毒薬の種類、 靴 物品、車両、 作用時間及び乾燥時間等 施設等の洗浄及び消毒に関する具体的

(記録の作成及び保管)

4

- (1) (2) 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。 略)
- (3) 月日 又は出荷若しくは移動先の農場等の名称並びに導入、出荷又は移動の年 導入、出荷又は移動を行つた家畜の種類、頭数及び健康状態、導入元

(削る)

(4)| • (5)|

略)

(大規模所有者が講ずる措置)

大規模所有者は、以下の措置を講ずること。

- 5 (略)
- (2) イ(1)又は(2)に掲げる牛、鹿、めん羊及び山羊にあつては、三千頭)を超四月以上のものに限る。)の頭数の合計が二百頭(第二十一条の五第八号 えないこと。)。 畜舎を担当する場合には、衛生管理を行う家畜(牛にあつては月齢が満 畜舎ごとに担当の飼養衛生管理者を配置すること(同一の者が複数の
- 6

(家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備)

7 らその取組内容を習熟しておくこと。 という。)において追加措置を講ずることとなる16及び21について、平時か して農林水産大臣が指定する地域(以下この項において「大臣指定地域」 ことが確認されているなど家畜伝染病の発生リスクが高まつているものと 家畜の所有者は、野生動物が口蹄疫等の家畜伝染病の病原体に感染した

(分割管理を導入する際の措置)

9 | 物等の動線の見直しにより、農場を分割して管理することに取り組む場合 口蹄疫等の発生時の影響の緩和を図るため、衛生管理区域及び人、車両、 家畜保健衛生所の確認を受け、 指導に従うこと。

(飼養する家畜の健康観察)

14 と。家畜を出荷等により農場外へ移動させる場合には、家畜に付着した排 畜の健康状態の確認に加え、出生及び死亡の状況の確認を含む。)を行うこ 確認すること せつ物等の汚れを取り除くとともに、移動の直前に当該家畜の健康状態を 接接触させないようにすること。また、毎日、飼養する家畜の健康観察(家 の伝染性疾病の発生状況及び導入する家畜の健康状態を確認すること等に より健康な家畜を導入すること。導入した家畜に家畜の伝染性疾病にかか つている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、他の家畜と直 他の農場等から家畜を導入する場合には、導入元の農場等における家畜

(記録の作成及び保管)

- 4 (1) (2) 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。 (略)
- (3) に導入の年月日 導入した家畜の種類、 頭数及び健康状態、導入元の農場等の名称並び
- (4)先の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日 出荷又は移動を行つた家畜の種類、 頭数及び健康状態、 出荷又は移動
- (5) (6) 略)

(大規模所有者が講ずる措置)

大規模所有者は、以下の措置を講ずること。

5

(2)

- 四月以上のものに限る。)の頭数の合計が二百頭(第二十一条の五第九号 えないこと。)。 イ(1)又は(2)に掲げる牛、鹿、めん羊及び山羊にあつては、三千頭)を超 畜舎を担当する場合には、衛生管理を行う家畜(牛にあつては月齢が満 畜舎ごとに担当の飼養衛生管理者を配置すること(同一の者が複数の

6

7

(家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備)

- らその取組内容を習熟しておくこと。 という。)において追加措置を講ずることとなる14及び21について、平時か して農林水産大臣が指定する地域(以下この項において「大臣指定地域」 ことが確認されているなど家畜伝染病の発生リスクが高まつているものと 家畜の所有者は、野生動物が口蹄疫等の家畜伝染病の病原体に感染した
- 略)

(新設)

(新設)

15~17 (略) 第二 衛生管理区域への病原体の侵入防止

(衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用

18

め、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かがない場合を除く。)。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐた 及び消毒を行うこと。 が当該衛生管理区域から退出するまでの間に、病原体を拡散させる可能性 管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合並びにその者 を講ずること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄 つ、更衣の前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置 いる衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的な に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること(その者が当該衛生 ブーツカバーを含む。以下この項において同じ。)を設置し、衛生管理区域 衛生管理区域専用の衣服及び靴(衛生管理区域に立ち入る際に着用して

(他の畜産関係施設等で使用した物品等を衛生管理区域に持ち込む際の措

20 ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、 過去四月以内に海外で使用した衣服及び靴は、原則、衛生管理区域内に持 な措置を講ずること。 他の畜産関係施設等で使用し、若しくは使用したおそれがある物品又は 洗浄、 消毒その他の必要

官

(削る)

(削る)

21 (削る) (略)

(削る)

22|第 · 三 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

23 (略)

(器具の定期的な清掃又は消毒等)

24 乳を除く。)が付着する物品を使用する際は、一頭ごとに交換又は消毒をす 又は消毒を定期的にすること。注射針、 飼養管理に使用する器具は畜舎に持ち込む際に消毒するとともに、 人工授精用器具その他の体液(生

> 17| 略

靴に排せつ物、

る経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。衣服又は

汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。

靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、

かつ、更衣の前後に利用す

管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合を除く。)。 更

に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること(その者が当該衛生 ブーツカバーを含む。以下この項において同じ。)を設置し、衛生管理区域 いる衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的な

衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び

(他の畜産関係施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措

18 衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、他の畜産関係施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則、 消毒その他の必要な措置を講ずること。

(海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置)

19 措置を講ずること。 いこと。やむを得ず持ち込む場合には、 こと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒その他の必要な過去四月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まな

飲用水の給与)

20 飼養する家畜に水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合に これを消毒すること。

略)

「家畜に関する事項」

22 より健康な家畜を導入すること。導入した家畜に家畜の伝染性疾病にかかの伝染性疾病の発生状況及び導入する家畜の健康状態を確認すること等に 他の農場等から家畜を導入する場合には、導入元の農場等における家畜 (家畜を導入する際の健康観察等)

接接触させないようにすること。 つている可能性のある異状がないことを確認するまでの間

他の家畜と直

23-24 (略) 第三 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

(器具の定期的な清掃又は消毒等)

人工授精用器具その他の体液 (生乳を除く。)が付着する物品を使用する際 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的にすること。注射針、 一頭ごとに交換又は消毒をすること。

第二 衛生管理区域への病原体の侵入防止

13 5 15

16

衛生管理区域専用の衣服及び靴(衛生管理区域に立ち入る際に着用して

(衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用)

25 (削る)

略)

26

畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の

給水設備等の病原体による汚染の防止

27 | 26 |

家畜の飼養管理に必要のない物品を畜舎に持ち込まないこと。

(畜舎外での病原体による汚染防止)

(給餌設備、

こと

27

28

等の飲用に適した水以外の水を家畜に給与する場合には、これを消毒する野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。水道水野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。水道水 等の処分、除草及び資材、 もに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材 理区域内にある施設の清掃を行つて、 (衛生管理区域内の整理整頓、 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとと 機材等の整理整頓等並びに畜舎その他の衛生管 畜舎等施設の清掃及び消毒 敷地及び畜舎等の施設を定期的に消

(削る)

毒すること

(削る)

(削る)

第四 衛生管理区域外への病原体の拡散防止

29 手袋を着用させ、当該衛生管理区域内において病原体による汚染がない状当該消毒機器を利用して消毒をする場合及びその者に衛生管理区域専用の設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において 消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること(その者が当該消毒 況で出口において手袋を外す場合を除く。)。 (衛生管理区域から退出する者の手指消毒等) 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、当該

30|

31 る物品を持ち出す場合にあつては、 家畜の死体又は排せつ物を持ち出す場合にあつては、)物品を持ち出す場合にあつては、洗浄、消毒その他の必要な措置を講じ、衛生管理区域から家畜の排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのあ 漏出が生じないよう

(削る)

33|

32|

略

(衛生管理区域から搬出する物品の消毒等)

にすること。

(衛生管理区域から搬出する物品の消毒等)

34

35 区域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。 家畜の排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのある物品を衛生管理

(家畜の出荷又は移動時の健康観察)

37| 38| 36 認すること。また、家畜の死体又は排せつ物を移動させる場合には、 認すること。また、家畜の死体又は排せつ物を移動させる場合には、漏出つ物等の汚れを取り除くとともに、移動の直前に当該家畜の健康状態を確家畜を出荷等により農場外へ移動させる場合には、家畜に付着した排せ が生じないようにすること。

略

29

野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。

畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の 、給餌設備、 給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止)

30

等の処分、除草及び資材、 もに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材 消毒すること。 衛生管理区域内は、 (衛生管理区域内の整理整頓及び消毒) ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとと 機材等の整理整頓等を行つて、敷地を定期的に

(畜舎等施設の清掃及び消毒)

31 づき定期的に清掃及び消毒すること。 畜舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基

家畜に関する事項

(毎日の健康観察)

32 び死亡の状況の確認を含む。)を行うこと。 毎日、飼養する家畜の健康観察(家畜の健康状態の確認に加え、 出生及

衛生管理区域外への病原体の拡散防止

(衛生管理区域から退出する者の手指消毒等)

33|

当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。)。 消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること(その者が当該消毒 設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、 当該出口付近において 当該

3

(号外第 217 号)

豚及び | 第一

家畜防疫に関する基本的事項

(家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践)

期的に点検し、 これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定 サイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。 生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブ に従うこと。 飼養する家畜が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関 家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛 改善を図ること。家畜保健衛生所が行う検査を受け、

(飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底)

疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者 冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家畜の伝染性 外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した 成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び に周知徹底すること。 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作

官

(4) 箇所を明示した農場の平面図 衛生管理区域及びその出入口並びに消毒設備等の衛生対策設備の設置 略)

(5) (7) 略)

(削る)

略)

月曜日

等めの更衣に関する具体的な方法、 手指、 衣服、 靴、物品、車両、 消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間施設等の洗浄及び消毒並びに防疫のた

(削る)

(記録の作成及び保管)

次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。

(2) 略)

令和7年9月29日

4

(3) 又は出荷若しくは移動先の農場等の名称並びに導入、出荷又は移動の年 導入、 出荷又は移動を行つた家畜の種類、頭数及び健康状態、導入元

(削る)

(4) (5) 略)

2

(飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底

3

作成し、

期的に点検し、

改善を図ること。また、

農場の最新の防疫体制が確認でき

るよう、消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図を

備えておくこと。家畜保健衛生所が行う検査を受け、

指導に従う

これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定 サイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。 生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、

農林水産省のウェブ

し、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛

飼養する家畜が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関

に周知徹底すること。 疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者 冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家畜の伝染性 外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した 成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作

(1) (3)

略)

(7) (4) (6) 猫等の愛玩動物の衛生管理区域内での飼育禁止

農場における防疫のための更衣

(9)

(10) な方法、消毒薬の種類 手指、 衣服、 靴 物品、 作用時間及び乾燥時間等 車両、 施設等の洗浄及び消毒に関する具体的

(記録の作成及び保管)

次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。

(1) (2) (略)

(3)に導入の年月日 導入した家畜の種類、 頭数及び健康状態、導入元の農場等の名称並び

(5)・(6) (略) 生の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日

(4)

出荷又は移動を行つた家畜の種類、頭数及び健康状態、

出荷又は移動

いのしし 豚及び

第一

家畜防疫に関する基本的事項

2

(家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践)

(大規模所有者が講ずる措置

大規模所有者は、以下の措置を講ずること。

5

(2)

(略)

大規模所有者は、以下の措置を講ずること。

(大規模所有者が講ずる措置

5

- (1) (2) (**略**)
- (3) 大規模所有者のうち、特に家畜の頭数が多く監視伝染病が発生した場合の殺処分等に多大な時間を要すると都道府県知事が認める者は、監視人員、資材、機材等の準備及び家畜の死体の焼却又は埋却の実施に関して所有者が行う 人員、資材、機材等の準備及び家畜の死体の焼却又は埋却の実施に関する。 大規模所有者のうち、特に家畜の頭数が多く監視伝染病が発生した場
- į į

6

(家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備)

て、平時からその取組内容を習熟しておくこと。 て、平時からその取組内容を習熟しておくこと。 で農林水産大臣が指定する地域(以下この項において「大臣指定地域」といが確認されているなど家畜伝染病の発生リスクが高まつているものとして、平時からその取組内容を習熟しておくこと。

É

(分割管理を導入する際の措置)

は、家畜保健衛生所の確認を受け、指導に従うこと。物等の動線の見直しにより、農場を分割して管理することに取り組む場合物等の発生時の影響の緩和を図るため、衛生管理区域及び人、車両、

10| (略

官

(埋却等に備えた措置)

11 法第二十一条の規定に基づく家畜の死体の埋却の用に供する土地(家畜組を行うことをもつて、埋却地等の確保に代えることができる。 という。)を確保すること。 ただし、埋却地等の確保が困難な場合においては、都道府県知事が講ずる土地の確保又は焼却若しくは化製のための施設若しくは機械の利用に係る措置について都道府県知事が求める取めの施設若しくは機械の利用に係る措置について都道府県知事が求める取めの施設若しくは機械の利用に係る措置について都道府県知事が求める取るの施設者に基づく家畜の死体の埋却の用に供する土地(家畜組を行うことをもつて、埋却地等の確保に代えることができる。

12| · 13| (略)

(飼養する家畜の健康観察)

14 他の農場等から家畜を導入する場合には、導入元の農場等における家畜の健康状態を確認すること。家畜を出荷等により農場外へ移動させる場合には、移動の直前に当該接触させないようにすること。また、毎日、飼養する家畜の健康観察(家畜の健康状態の確認に加え、出生及び死亡の状況の確認を含む。)を行うこと。家畜を出荷等により農場外へ移動させる場合には、移動の直前に当該家畜の健康状態を確認すること。

(格)

6

する事項を含む。)を策定すること。 (家畜の死体の焼却又は埋却の実施に関合の殺処分等に多大な時間を要すると都道府県知事が認める者は、監視の、大規模所有者のうち、特に家畜の頭数が多く監視伝染病が発生した場

(家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備)

て、平時からその取組内容を習熟しておくこと。 (20、28及び29についいう。) において追加措置を講ずることとなる14、22、26、28及び29についたが確認されているなど家畜伝染病の発生リスクが高まつているものとし家畜の所有者は、野生動物が豚熱等の家畜伝染病の病原体に感染したこ家畜の所有者は、野生動物が豚熱等の家畜伝染病の病原体に感染したこ

(略)

8

(新設)

9 |

(埋却等に備えた措置)(略)

10 法第二十一条の規定に基づく家畜の死体の埋却の用に供する土地(家畜組を行うことをもつて、埋却地等の確保に代えることができる。組を行うことをもつて、埋却地等の産保が困難な場合においては、都道府県知事が講ずる土地の確保又は焼却若しくは化製のたにおいては、都道府県知事が講ずる土地の確保又は焼却若しくは化製のたにおいては、都道府県知事が講ずる土地の確保又は焼却若しくは化製のたいが、埋却地等の確保が困難な場合においては、都道府県知事が講がる土地の東に供する土地(家畜組を行うことをもつて、埋却地等の確保に代えることができる。

11| · 12| (略)

(新設)

第二 衛生管理区域への病原体の侵入防止

15 5 17

18

(衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用)

がない場合を除く。)。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐた が当該衛生管理区域から退出するまでの間に、病原体を拡散させる可能性 管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合並びにその者 を講ずること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、 つ、更衣の前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置 いる衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的な 及び消毒を行うこと。 ブーツカバーを含む。以下この項において同じ。)を設置し、衛生管理区域 に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること(その者が当該衛生 衛生管理区域専用の衣服及び靴(衛生管理区域に立ち入る際に着用して 着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、か

19

(他の畜産関係施設等で使用した物品等を衛生管理区域に持ち込む際の措

20 ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、 過去四月以内に海外で使用した衣服及び靴は、 な措置を講ずること。 他の畜産関係施設等で使用し、若しくは使用したおそれがある物品又は 衛生管理区域内に持 消毒その他の必要

(削る)

(削る)

月曜日

21 · 22 (略)

(衛生管理区域への野生動物の侵入防止)

令和7年9月29日

23 野生いのしし等との接触防止対策が講じられたものに限る。)その他の必要 生いのししが侵入しないよう防護柵の設置(野生いのしし等のくぐり抜け な措置を講ずること。定期的に防護柵その他の破損状況を確認し、 を防止できるものに限る。放牧場等の屋外飼養施設の場合は、二重柵等の ある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。 野生いのししの生息地域に所在する農場においては、衛生管理区域に野

16

(衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用)

13 5 15

衛生管理区域への病原体の侵入防止

靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。 靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、 衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び 管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合を除く。)。更 ブーツカバーを含む。以下この項において同じ。)を設置し、衛生管理区域 る経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。 に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること(その者が当該衛生 いる衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的な 衛生管理区域専用の衣服及び靴 (衛生管理区域に立ち入る際に着用して かつ、更衣の前後に利用す 衣服又は

17 略)

(他の畜産関係施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措

消毒その他の必要な措置を講ずること 衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、 他の畜産関係施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則

18

(海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置)

19

措置を講ずること。 いこと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒その他の必要な 過去四月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まな

20 飼養する家畜に水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合に これを消毒すること。

(飲用水の給与)

21 • 22

(衛生管理区域への野生動物の侵入防止)

ある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。ねずみ等の野生動な措置を講ずること。定期的に防護柵その他の破損状況を確認し、破損が 野生いのしし等との接触防止対策が講じられたものに限る。)その他の必要 物が隠れる場所をなくすよう、 を防止できるものに限る。放牧場等の屋外飼養施設の場合は、二重柵等の 生いのししが侵入しないよう防護柵の設置(野生いのしし等のくぐり抜け ずること。 野生いのししの生息地域に所在する農場においては、衛生管理区域に野 防護柵周囲の除草その他の必要な措置を講

(削る)

(削る)

衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

24| 第 · 三 25

(器具の定期的な清掃又は消毒等)

26 又は消毒を定期的にすること。注射針、 着する物品を使用する際は、注射針にあつては少なくとも畜房ごとに、人 工授精用器具その他の物品にあっては一頭ごとに交換又は消毒をするこ 飼養管理に使用する器具は畜舎に持ち込む際に消毒するとともに、清掃 人工授精用器具その他の体液が付

(畜舎外での病原体による汚染防止)

27 車等を持ち込む場合には、畜舎の出入口付近において洗浄及び消毒をする 壁等により野生動物等による病原体の侵入を防止できる畜舎間通路、 及び消毒済みのケージ、リフト等を使用するとともに、畜舎に重機、一輪 大臣指定地域においては、畜舎間で家畜を移動させる場合には、

指定地域における放牧場についての取組) (野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕並びに大臣

28 指定地域においては、放牧場について給餌場所における防鳥ネットの設置 並びに当該設備が設置された畜舎等の屋根及び壁面の破損状況を確認し、 の項において同じ。)その他の設備を設置するとともに、定期的に当該設備 下のもの又はこれと同等の効果を有すると認められるものに限る。以下こ 及び家畜を収容できる避難用の設備の確保を行うこと。 破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕すること。また、大臣 を防止することができる防鳥ネット(網目の大きさが二センチメートル以 野鳥等の野生動物の畜舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等への侵入

給水設備等の病原体による汚染の防止

29 野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。 等の飲用に適した水以外の水を家畜に給与する場合には、 畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の これを消毒する 水道水

ねずみ及び害虫の駆除

30 粘着シートの設置その他の必要な措置を講ずること。 ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、

[家畜に関する事項]

(家畜を導入する際の健康観察等)

より健康な家畜を導入すること。導入した家畜に家畜の伝染性疾病にかかの伝染性疾病の発生状況及び導入する家畜の健康状態を確認すること等に 接接触させないようにすること。 つている可能性のある異状がないことを確認するまでの間 他の農場等から家畜を導入する場合には、 導入元の農場等における家畜 他の家畜と直

25・26 (略) 第三 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

(器具の定期的な清掃又は消毒等)

27

頭ごとに交換又は消毒をすること。 つては少なくとも畜房ごとに、人工授精用器具その他の物品にあっては 人工授精用器具その他の体液が付着する物品を使用する際は、注射針にあ 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的にすること。注射針

(畜舎外での病原体による汚染防止)

28

みのケージ、リフト等を使用するとともに、畜舎に重機、 野生動物等による病原体の侵入を防止できる畜舎間通路、洗浄及び消毒済 地域においては、 込む場合には、畜舎の出入口付近において洗浄及び消毒をすること。 (野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕並びに大臣 家畜の飼養管理に必要のない物品を畜舎に持ち込まないこと。大臣指定 畜舎間で家畜を移動させる場合には、屋根、壁等により 一輪車等を持ち

指定地域における放牧場についての取組)

ける防鳥ネットの設置及び家畜を収容できる避難用の設備の確保を行うこ すること。また、大臣指定地域においては、放牧場について給餌場所にお の破損状況を確認し、破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕 の項において同じ。)その他の設備を設置するとともに、定期的に当該設備 下のもの又はこれと同等の効果を有すると認められるものに限る。以下こ を防止することができる防鳥ネット(網目の大きさが二センチメートル以 野鳥等の野生動物の畜舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等への侵入

(給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止)

30| 野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。 畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の

(ねずみ及び害虫の駆除)

31| 壁面に破損がある場合には、 粘着シートの設置その他の必要な措置を講ずるとともに、畜舎の屋根又は ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、 遅滞なくその破損箇所を修繕すること。

(衛生管理区域内の整理整頓及び消毒)

32 等の処分、除草及び資材、機材等の整理整頓等を行つて、敷地を定期的に もに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材 消毒すること。 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとと

(畜舎等施設の清掃及び消毒)

33| つき定期的に清掃及び消毒すること。 畜舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基

家畜に関する事項)

(毎日の健康観察)

34 び死亡の状況の確認を含む。)を行うこと 毎日、飼養する家畜の健康観察(家畜の健康状態の確認に加え、

衛生管理区域外への病原体の拡散防止

第四

35 当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。)。 設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該出口付近において 消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること(その者が当該消毒 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、 (衛生管理区域から退出する者の手指消毒等)

36

(衛生管理区域から搬出する物品の消毒等)

37

区域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。 家畜の排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのある物品を衛生管理

(家畜の出荷又は移動時の健康観察)

38 畜の健康状態を確認すること。また、家畜の死体又は排せつ物を移動させ家畜を出荷等により農場外へ移動させる場合には、移動の直前に当該家 る場合には、 漏出が生じないようにすること。

39 40 (略

あ 第 家畜防疫に関する基本的事項

1

ひる、

う

ずら、き

(家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践)

よう、ほ 及び七面 ろほろ鳥 じ、だち 2 できるよう、消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面を定期的に点検し、改善を図ること。また、農場の最新の防疫体制が確認と。これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況 図を作成し ブサイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握するこ 衛生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェ 関し、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健 従うこと 飼養する家きんが感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に 備えておくこと。 家畜保健衛生所が行う検査を受け、 指導に

(4) (5)

略)

(削る)

年月日

元又は出荷若しくは移動先の農場等の名称並びに導入、出荷又は移動の

導入、出荷又は移動を行つた家きんの種類、羽数及び健康状態、導入

(3)

(飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底

3

者に周知徹底すること。 性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業 冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家きんの伝染 外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した 成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作

(5) (7) (略)

(略)

(削る)

(略

消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図

等| めの更衣に関する具体的な方法、 手指、衣服、 靴、 具体的な方法、消毒薬の種類、作用時間及び乾燥時間物品、車両、施設等の洗浄及び消毒並びに防疫のた

(削る)

(1) 明らかな場合を除く。)並びに消毒の実施の有無(衛生管理区域に車両を 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること 持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫 毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の 定される施設において、衛生管理区域の出入口における手指及び靴の消 域の名称及び当該国又は地域における畜産関係施設等への立入りの有 は帰国した場合にあつては、過去一週間以内に滞在した全ての国又は地 入れる者にあつては、当該車両の消毒の有無を含む。消毒の実施の記録 は所属、当該衛生管理区域への立入りの年月日、その目的(所属等から こと。)並びに当該立ち入つた者が過去一週間以内に海外から入国し、又 については、衛生管理区域の出入口等に台帳を設置し、これに記入する て同じ。)に立ち入つた者(当該農場の従事者を除く。)の氏名及び住所又 衛生管理区域(8に規定する衛生管理区域をいう。以下この項におい ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想

(記録の作成及び保管)

4

員が適切なものであることを確認した場合は、 この限りでない。

(飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底

3

- 者に周知徹底すること。 性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業 冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。家きんの伝染 外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した 成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作
- (1) (3)

(新設)

(7) (4) (6) 略

猫等の愛玩動物の衛生管理区域内での飼育禁止

(略)

農場における防疫のための更衣

(9)

(10) な方法、消毒薬の種類、 手指、 衣服、靴、 物品、車両、施設等の洗浄及び消毒に関する具体的 作用時間及び乾燥時間等

(記録の作成及び保管)

- 4 こと。)並びに当該立ち入つた者が過去一週間以内に海外から入国し、又については、衛生管理区域の出入口等に台帳を設置し、これに記入する 次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。 毒など、不特定かつ多数の者が衛生管理区域に出入りする際の病原体の 域の名称及び当該国又は地域における畜産関係施設等への立入りの有 は帰国した場合にあつては、過去一週間以内に滞在した全ての国又は地 明らかな場合を除く。)並びに消毒の実施の有無(衛生管理区域に車両を 員が適切なものであることを確認した場合は、この限りでない 持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫 定される施設において、衛生管理区域の出入口における手指及び靴の消 入れる者にあつては、当該車両の消毒の有無を含む。消毒の実施の記録 は所属、当該衛生管理区域への立入りの年月日、その目的 て同じ。)に立ち入つた者(当該農場の従事者を除く。)の氏名及び住所又 衛生管理区域(7に規定する衛生管理区域をいう。以下この項におい ただし、観光牧場その他の不特定かつ多数の者が立ち入ることが想 (所属等から
- びに導入の年月日 導入した家きんの種類、 羽数及び健康状態、 導入元の農場等の名称並
- (5) (6) (4)動先の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日 出荷又は移動を行つた家きんの種類、 羽数及び健康状態 出荷又は移
- (略

(大規模所有者が講ずる措置)

大規模所有者は、以下の措置を講ずること。

5

- (2) ほろほろ鳥及び七面鳥の場合は一万羽を超えないこと。)。 が鶏及びうずらの場合は十万羽、あひる、きじ、エミュー、 数の家きん舎を担当する場合には、衛生管理を行う家きんの羽数の合計 家きん舎ごとに担当の飼養衛生管理者を配置すること(同一の者が複 だちよう、
- (3)場合の殺処分等に多大な時間を要すると都道府県知事が認める者は、以 大規模所有者のうち、特に家きんの羽数が多く監視伝染病が発生した 下の措置を講ずること
- 1 割して管理すること(以下この項において「分割管理」という。)の導像生管理区域及び人、車両、物等の動線の見直しにより、農場を分 へについて検討すること。
- 2 者が行う人員、資材、機材等の準備及び家きんの死体の焼却又は埋却 の実施に関する事項を含む。)を策定すること。 監視伝染病の発生に備えた対応計画(防疫措置の実施に関して所有
- に、ウインドウレス鶏舎やその周辺において粉じん、羽毛等を介した止に関し、家畜保健衛生所から提供される情報に基づき、適切な時期止に関し、家畜保健衛生所から提供される情報に基づき、適切な時期の競権する家きんが感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防 該措置の実施により家きんの健康を害するおそれがあるときは、この 病原体の家きん舎への侵入を抑制する措置を講ずること。(ただし、当 限りでない。)

6

官

(家畜伝染病の発生リスクの高まりに対する準備)

7 | この項において「大臣指定地域」という。)において追加措置を講ずること リスクが高いと考えられるものとして農林水産大臣が指定する地域(以下 エンザが過去に複数事例発生しているなど家畜伝染病の発生及びまん延の となる10及び21について、 家きんの所有者は、高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフル 平時からその取組内容を習熟しておくこと。

略)

(分割管理を導入する際の措置)

9 | 理に取り組む場合は、家畜保健衛生所の確認を受け、 、消毒等の実施に備えた措置) 高病原性鳥インフルエンザ等の発生時の影響の緩和を図るため、 指導に従うこと。 分割管

11 10 ルを標準とする。)又は家きんの死体の焼却の用に供する焼却施設(以下11きん(日齢が満百五十日以上のものに限る。)百羽当たり〇・七平方メート する場合に備え、 において 法第二十一条の規定に基づく家きんの死体の埋却の用に供する土地(家 大臣指定地域にあつては、法第三十条の規定に基づく消毒方法等を実施 「埋却地等」という。)を確保すること。 ただし、 埋却地等の確保 消毒薬の備蓄その他の必要な準備措置を講ずること。

6

略

(新設)

7 |

略

(新設)

ルを標準とする。)又は家きんの死体の焼却の用に供する焼却施設(以下8きん(日齢が満百五十日以上のものに限る。)百羽当たり〇・七平方メート において「埋却地等」という。)を確保すること。 ただし、 法第二十一条の規定に基づく家きんの死体の埋却の用に供する土地(家 埋却地等の確保

8 |

(新設

(大規模所有者が講ずる措置)

大規模所有者は、以下の措置を講ずること。

5

- (2)数の家きん舎を担当する場合には、 が鶏及びうずらの場合は十万羽、あひる、きじ、だちよう、ほろほろ鳥 及び七面鳥の場合は一万羽を超えないこと。)。 家きん舎ごとに担当の飼養衛生管理者を配置すること 衛生管理を行う家きんの羽数の合計 (同一の者が複
- 場合の殺処分等に多大な時間を要すると都道府県知事が認める者は、監 大規模所有者のうち、特に家きんの羽数が多く監視伝染病が発生した 視伝染病の発生に備えた対応計画(家きんの死体の焼却又は埋却の実施 に関する事項を含む。)を策定すること。

(新設)

(新設)

(新設)

(削る)

事が求める取組を行うことをもつて、埋却地等の確保に代えることができくは化製のための施設若しくは機械の利用に係る措置について都道府県知 が困難な場合においては、都道府県知事が講ずる土地の確保又は焼却若し

12| • 13|

(飼養する家きんの健康観察) (略)

14 確認を含む。)を行うこと。家きんを出荷等により農場外へ移動させる場合 他の家きんと直接接触させないようにすること。また、毎日、飼養する家 性疾病にかかつている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、 には、 きんの健康観察(家きんの健康状態の確認に加え、ふ化及び死亡の状況の と等により健康な家きんを導入すること。導入した家きんに家きんの伝染 きんの伝染性疾病の発生状況及び導入する家きんの健康状態を確認するこ 他の農場等から家きんを導入する場合には、 移動の直前に当該家きんの健康状態を確認すること。 導入元の農場等における家

第二 衛生管理区域への病原体の侵入防止

15 5 17

(衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用)

18 がない場合を除く。)。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐた が当該衛生管理区域から退出するまでの間に、病原体を拡散させる可能性 管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合並びにその者 いる衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的な を講ずること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、 つ、更衣の前後に利用する経路を一方通行とすることその他の必要な措置 及び消毒を行うこと。 に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること(その者が当該衛生 ブーツカバーを含む。以下この項において同じ。)を設置し、衛生管理区域 衛生管理区域専用の衣服及び靴(衛生管理区域に立ち入る際に着用して 着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、 か

19

(他の畜産関係施設などで使用した物品などを衛生管理区域に持ち込む際

20 ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、 過去二月以内に海外で使用した衣服及び靴は、 な措置を講ずること 他の畜産関係施設等で使用し、若しくは使用したおそれがある物品又は 衛生管理区域内に持 消毒その他の必要

が困難な場合においては、都道府県知事が講ずる土地の確保又は焼却若し 事が求める取組を行うことをもつて、 くは化製のための施設若しくは機械の利用に係る措置について都道府県知 埋却地等の確保に代えることができ

9 | • 10| 略)

(新設)

第二 衛生管理区域への病原体の侵入防止

11 5 13

14

靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、 管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合を除く。)。更 に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること(その者が当該衛生ブーツカバーを含む。以下この項において同じ。)を設置し、衛生管理区域 靴に排せつ物、 る経路を一方通行とすることその他の必要な措置を講ずること。 衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、 いる衣服の上から着用する衛生的な衣服及び靴の上から着用する衛生的な 衛生管理区域専用の衣服及び靴(衛生管理区域に立ち入る際に着用し (衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用 汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。 かつ、更衣の前後に利用す 着脱前後の衣服及び 衣服又は

15

略

(他の畜産関係施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措

16 消毒その他の必要な措置を講ずること。 衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄 他の畜産関係施設等で使用し、 又は使用したおそれがある物品は、原則

(海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置)

17 いこと。やむを得ず持ち込む場合には、 措置を講ずること 過去二月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まな 事前に洗浄、 消毒その他の必要な

24

(削る)

18

(飲用水の給与)

飼養する家きんに水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合に

〔野生動物に関する事項〕

(農場周辺の状況把握)

21| 況を把握し、 指定地域内で講ずるべき野鳥誘引防止対策を検討すること。 大臣指定地域に所在する農場においては、 農場内における野鳥誘引防止対策を実施するとともに、 対策を実施するとともに、大臣 農場周辺の野鳥の生息等の状

(削る)

(削る)

22| 第 · 三 23| 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

清掃又は消毒を定期的にすること。 (器具の定期的な清掃又は消毒等) 飼養管理に使用する器具は家きん舎に持ち込む際に消毒するとともに、

(削る)

官

(野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕)

25 状況を確認し、破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕するこ すると認められるものに限る。)その他の設備を設置するとともに、定期的 池等の農場敷地内の水場等への侵入を防止することができる防鳥ネット に当該設備並びに当該設備が設置された家きん舎等の屋根及び壁面の破損 (網目の大きさが二センチメートル以下のもの又はこれと同等の効果を有 野鳥等の野生動物の家きん舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫、

月曜日

(給餌設備、給水設備等への病原体による汚染の防止)

令和7年9月29日

26 道水等の飲用に適した水以外の水を家きんに給与する場合には、これを消等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。水器、家きん舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥 毒すること。

ねずみ及び害虫の駆除

27 粘着シートの設置その他の必要な措置を講ずること。 ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、

[家きんに関する事項]

(新設)

(新設)

は、これを消毒すること。

(家きんを導入する際の健康観察等)

19

性疾病にかかつている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、 他の家きんと直接接触させないようにすること と等により健康な家きんを導入すること。導入した家きんに家きんの伝染 きんの伝染性疾病の発生状況及び導入する家きんの健康状態を確認するこ 他の農場等から家きんを導入する場合には、 導入元の農場等における家

20|・21| (略) 第三 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

22| 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的にすること。 (器具の定期的な清掃又は消毒等)

(家きん舎外での病原体による汚染防止)

23 (野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、 家きんの飼養管理に必要のない物品を家きん舎に持ち込まないこと。 点検及び修繕)

24 の他の設備を設置するとともに、定期的に当該設備の破損状況を確認し、 ル以下のもの又はこれと同等の効果を有すると認められるものに限る。)そ 侵入を防止することができる防鳥ネット(網目の大きさが二センチメート 破損がある場合には、 野鳥等の野生動物の家きん舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等への 遅滞なくその破損箇所を修繕すること。

(給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止)

25| 等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。 家きん舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、

、ねずみ及び害虫の駆除、

26 粘着シートの設置その他の必要な措置を講ずるとともに、 又は壁面に破損がある場合には、 ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、 遅滞なくその破損箇所を修繕すること。 家きん舎の屋根

41	令和了	7年:	9月29	日月	月曜日		官	•	幹	Ž				(号	外第	217	7号)			
		四馬																		
サイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブし、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛	2 飼養する馬が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関(家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践)		32 (肖名) (明) (明) (明) (明) (明) (明) (明) (明) (明) (明		いようにすること。 いようにすること。 いようにすること。	31 衛生管理区域から家きんの排せつ物等が付着し、又は付着したおそれの (権生管理区域から・撤出する牧品の消毒等)	30 (略)	況で出口において手袋を外す場合を除く。)。手袋を着用させ、当該衛生管理区域内において病原体による汚染が	当該消毒機器を利用して消毒をする場合及びその者に衛生管理区域専用の 「「「「「「「「」」」であり、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「「」」では、「」」では、「」」では、「」では、「		29 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、当該	(衛生管理区域から退出する者の手指消毒等)	第四 衛生管理区域外への病原体の拡散防止	(削る)	(削る)	(削る)	期的に消毒すること。	日本のでは、1975年である。 日のでは、1975年である。 日のでは、1975年では、1975年である。 日のでは、1975年である。 日のでは、1975年である。 日のでは、1975年では、1975年である。 日のでは、1975年では、1975年である。 日のでは、1975年では、1975	※正文 だけ、 原体が侵入した場	28 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとと (衛生管理区域内の整理整頓、家きん舎等施設の清掃及び消毒)
		四馬																		
サイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握すること。生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブし、家畜保健衛生所から提供される情報を必ず確認すること。家畜保健衛	2 飼養する馬が感染する伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関(家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践)1 (略)	-	3 第5人を出本等により農場タへ移動させる場合には、漏出が生じないようにすること。 動させる場合には、漏出が生じないようにすること。 「動させる場合には、漏出が生じないようにすること。	多力	と。 世区域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずるこ	32 家きんの排せつ物等が付着し、又は付着したおそれのある物品を衛生管 (権生管理区域から搬出する物品の消毒等)	31 (略)		主語とし作道にする	父前上司等以上の効果を冒する肖ケ幾器を携すし、当亥出コ寸丘こさって 消毒設備を利用して手指の洗浄及び消毒をさせること(その者が当該消毒	30 衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し、当該	(衛生管理区域から退出する者の手指消毒等)	第四 衛生管理区域外への病原体の拡散防止	化及び死亡の状況の確認を含む。)を行うこと。	[(毎日の健康観察) [家きんに関する事項]	に基づき定期的に清掃及び消毒すること。 28 家きん舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアル	(家きん舎等施設の清掃及び消毒)	消毒すること。	場	27 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとと(衛生管理区域内の整理整頓及び消毒)

期的に点検し、改善を図ること。家畜保健衛生所が行う検査を受け、指導 に従うこと。 これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定

期的に点検し、改善を図ること。また、農場の最新の防疫体制が確認でき

消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図を

これらの情報を踏まえ、自らの農場の防疫体制及び飼養衛生管理状況を定

作成し、備えておくこと。家畜保健衛生所が行う検査を受け、

指導に従う

るよう、

(飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底)

3 周知徹底すること。 病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者に 冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。馬の伝染性疾 外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した 成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び 次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作

略)

(4)箇所を明示した農場の平面図 衛生管理区域及びその出入口並びに消毒設備等の衛生対策設備の設置

(5) (9) 略)

(記録の作成及び保管)

次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。

(3) は出荷若しくは移動先の農場等の名称並びに導入、出荷又は移動の年月 導入、出荷又は移動を行つた馬の種類、頭数及び健康状態、導入元又

(削る)

5 6 略)

(4) (5)

略)

月曜日

[馬に関する事項]

(飼養する馬の健康観察)

性のある異状がないことを確認するまでの間、 康な馬を導入すること。導入した馬に馬の伝染性疾病にかかつている可能 等により農場外へ移動させる場合には、 ようにすること。また、毎日、飼養する馬の健康観察(馬の健康状態の確 染性疾病の発生状況及び導入する馬の健康状態を確認すること等により健 認に加え、 確認すること。 他の農場等から馬を導入する場合には、導入元の農場等における馬の伝 出生及び死亡の状況の確認を含む。)を行うとともに、 移動の直前に当該馬の健康状態を 他の馬と直接接触させない

令和7年9月29日

(新設)

(1) (3)

周知徹底すること。

病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者に 冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講ずること。馬の伝染性疾 外部事業者が当該マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した 成に当たつては、獣医師等の専門家の意見を反映させること。従事者及び

次に掲げる事項を規定するマニュアルを作成すること。マニュアルの作

(飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底

(4) (8) 略

(記録の作成及び保管)

次に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも一年間保存すること。

略)

導入の年月日 導入した馬の種類、 頭数及び健康状態、導入元の農場等の名称並びに

(5) (6)

の農場等の名称並びに出荷又は移動の年月日

出荷又は移動を行つた馬の種類、頭数及び健康状態

出荷又は移動先

(4)

5 6

(新設)

(新設)

衛生管理区域への病原体の侵入防止

7 5 10

衛生管理区域への病原体の侵入防止

(削る)

(他の馬の飼養施設等で使用した物品等を衛生管理区域に持ち込む際の措

12

まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、 置を講ずること。 一月以内に海外で使用した衣服及び靴は、原則、 他の馬の飼養施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品及び過去 衛生管理区域内に持ち込 消毒その他の必要な措

(削る)

(削る)

(削る)

(削る)

13|第 · 三 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

15 又は消毒を定期的にすること。注射針、繁殖検査用器具その他の体液が付 着する物品を使用する際は一頭ごとに交換又は消毒をすること。 (器具の定期的な清掃又は消毒等) 飼養管理に使用する器具は厩舎に持ち込む際に消毒するとともに、

16

(給餌設備、給水設備等の病原体による汚染の防止)

17 等の飲用に適した水以外の水を馬に給与する場合には、これを消毒するこ 野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。水道水厩舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の

(衛生管理区域内の整理整頓、厩舎等施設の清掃及び消毒)

18 等の処分、除草及び資材、機材等の整理整頓等並びに厩舎その他の衛生管もに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材 毒すること。 理区域内にある施設の清掃を行つて、 衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとと 敷地及び厩舎等の施設を定期的に消

(他の馬の飼養施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措

11| 衛生管理区域内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、1 他の馬の飼養施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則、 消毒その他の必要な措置を講ずること。

(海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置)

12

措置を講ずること。 いこと。やむを得ず持ち込む場合には、 ;こと。やむを得ず持ち込む場合には、事前に洗浄、消毒その他の必要な過去二月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込まな

(飲用水の給与)

これを消毒すること。 飼養する馬に水道水等の飲用に適した水以外の水を給与する場合には、

〔馬に関する事項〕

康な馬を導入すること。導入した馬に馬の伝染性疾病にかかつている可能染性疾病の発生状況及び導入する馬の健康状態を確認すること等により健独的の農場等から馬を導入する場合には、導入元の農場等における馬の伝 性のある異状がないことを確認するまでの間、 ようにすること (馬を導入する際の健康観察等) 他の馬と直接接触させない

衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

15|第 · 三 16|

(器具の定期的な清掃又は消毒等)

17 繁殖検査用器具その他の体液が付着する物品を使用する際は一頭ごとに交 換又は消毒をすること。 飼養管理に使用する器具の清掃又は消毒を定期的にすること。注射針、

(厩舎外での病原体による汚染防止)

馬の飼養管理に必要のない物品を厩舎に持ち込まないこと。

19|18|

《給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止》

20 野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。 厩舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の

(衛生管理区域内の整理整頓及び消毒)

21|

等の処分、除草及び資材、機材等の整理整頓等を行つて、敷地を定期的に もに、病原体が侵入した場合に当該病原体が残存しないよう、不要な資材 消毒すること 衛生管理区域内は、 ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくすとと

(厩舎等施設の清掃及び消毒)

22 づき定期的に清掃及び消毒すること。 厩舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基

11 小日 】 一	- Эл 29 ц	一	П	TIX	(カバカ	<u> </u>	44
41 664	2.1	0.1		家畜 非商用	991	0.1 +0.166	
(衛生管理区域等への病原体の侵入防止 第二 衛生管理区域等への病原体の侵入防止 域専用の手袋を着用させる場合を除く。)。 域専用の手袋を着用させる場合を除く。)。	を行つている者又は施設に限る。)を定め、定期的に当該獣医師又は診療施とのこと。 「密飼いの防止」 「密検しないことは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	(家畜保健衛生所と緊密ともに、移動の直前に当該	の頂こおいて「衛生管理区域等」という。小へ多動させる場合は、家畜この頂こおいて「衛生管理区域又は専ら住居の用に供する畜舎等の敷地(以下こと。家畜を衛生管理区域又は専ら住居の用に供する畜舎等の敷地(以下ことを確認する家畜の健康観察(家畜接接触させないようにすること。また、毎日、飼養する家畜の健康観察(家畜と検したので、一般に対して、一般に対し、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対し、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対して、一般に対し、一般に対し、一般に対し、一般に対し、一般に対し、一般に対し、対し、一般に対し、一般に対し、対し、一般に対し	- I ハ I ム I - 1	22 (削る)	19 ・20 衛生管理区域外への病原体の拡散防止 第四 衛生管理区域外への病原体の拡散防止 第四 衛生管理区域外への病原体の拡散防止	(削る)
				新設)			
				(新設)	(馬の出荷又は移動時の健康観察) [() () () () () () () () () (域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講ずること。 [(衛生管理区域から搬出する物品の消毒等) [(衛生管理区域から搬出する物品の消毒等) [第四 衛生管理区域外への病原体の拡散防止	での状況の確認を含む。)を行うこと。 (毎日、飼養する馬の健康観察(馬の健康状態の確認に加え、出生及び死傷日の健康観察)

(衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用)

5 衛生管理区域専用の衣服及び靴(衛生管理区域に立ち入る際に着用している衣服の上から着用する衛生的なな服及び靴の上から着用する衛生的なが当該衛生管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合並びにその者が当該衛生管理区域に立ち入る者に対し、これらを着実に着用させること(その者が当該衛生管理区域専用の衣服及び靴を持参し、これらを着用する場合並びにその者が当該衛生管理区域に退出するまでの間に、病原体を拡散させる可能性がない場合を除く。)。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かつ、おい場合を除く。)。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管し、かつ、では場合を除く。)。更衣による病原体の衛生管理区域への侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこと、分離板等で場所を離して保管し、かつ、ですること。衣服又は靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行うこと。

6 | の方法により、車内における交差汚染を防止するための措置を講じさせる 区域に車両を入れる者に対し、当該農場専用のフロアマットの使用その他 付近において当該消毒機器を利用して消毒をする場合を除く。)。 衛生管理 者が当該消毒設備と同等以上の効果を有する消毒機器を携行し、当該入口 毒その他の必要な措置を講ずること。衛生管理区域内に車両が立ち入る場 理区域等内に持ち込まないこと。やむを得ず持ち込む場合には、 合にあつては、 る者に対し、 他の農場等で使用し、又は使用したおそれのある物品は、原則、 (他の農場等に持ち込んだ物品等を衛生管理区域等に持ち込む際の措置) 当該消毒設備を利用して当該車両の消毒をさせること(その 衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、車両を入れ 洗浄、 衛生管 消

第三 衛生管理区域等内における病原体による汚染拡大防止こと(その者が衛生管理区域内で降車しない場合を除く。)。

(畜舎及び器具の清掃又は消毒の実施)

(野生動物の侵入防止及び害虫の駆除) 畜舎及び器具の清掃又は消毒を定期的に行うこと。

(飼料・飲水の病原体による汚染の防止)

9 畜舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。水道水野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講ずること。水道水

2

月曜日

令和7年9月29日

(施行期日) 附 則

1 この省令は、 次項の規定 公布の日 令和七年十月一日から施行する。 ただし、 次の各号に掲げる規定は、 当該各号に定める日から施行する。

三 第四十三条、第四十五条、第四十七条の二及び第五十条の改正規定、別表第二の三の項の改正規定中5別表第二の三の項の改正規定中10及び21に係る部分(令和八年一月一日)

(経過措置) (3) ③に係る部分並びに同表第二の四の項の次に五の項を加える改正規定 次項において同じ。)を輸入しようとする者は、 令和八年十月一 この省令

3 りしなければならない。 七条に規定する港又は飛行場に入港し、又は着陸することとなっているときは、新規則第四十七条の三の規定にかかわらず、この省令の施行後遅滞なく、新規則別記様式第二十一号の三による書面によ 新規則第四十七条の二第二号に掲げる動物についての家畜伝染病予防法第三十八条の二第一項の規定による届出は、その動物を積載した船舶又は航空機が令和八年十一月九日までの間に新規則第四十